

女性の力は偉大!

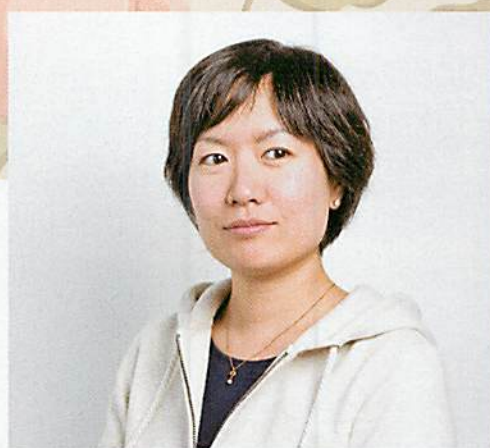
きらり **なでしこ** Power!

【第4回】

女性ならではの視点で開発された
商品・サービス、そして仕事に対する
思いをインタビュー



教室はまちなかのカフェや狸小路など。生徒はなんと下は6歳から上は96歳まで老若男女問わず、さまざまな市民が参加している。写真は、当別の畑で“北海道の食べかた”の授業を行った時のもの。



【Profile】

特定非営利活動法人 **札幌オドオリ大学**
学長 **猪熊 梨恵** さん

1985年札幌市生まれ。札幌市立高等専門学校卒業後、同校の専攻科に入学。卒業後、web制作会社に就職し、トークショーの企画や、市内のクリエイターと企業をつなげるウェブサイトを手掛ける。2009年9月に退社後、札幌オドオリ大学学長に就任。

住所 札幌市中央区大通西17丁目1-7
HP <http://odori.univnet.jp>

より『人』と対話できる 仕事に就きたい

札幌のまちなかのあらゆる場所が「キャンパス」になる札幌オドオリ大学。東京にあるシブヤ大学のノウハウ移転事業の三番目の姉妹校として、二〇一〇年から動き出した。

設立当初から、学長として携わってきたのは、猪熊梨恵さん。学生時代に建築デザインを学ぶうちに、建物よりも「まちと人との関わり」に興味を持ったという。「シブヤ大学のノウハウは、そのまちの資産をうまく伝える媒体だと魅力的に感じています。学長を決める際に、勢いで『やります!』と手を挙げて、今に至ります。周りの大人が『どうやって生活をするんだ』と心配していました」と猪熊さんは笑う。

学生時代に一緒に学んだ仲間就職先は、ほとんどが東京や大阪だったが、猪熊さんは、札幌に生まれ育ったからには、札幌のために仕事をしたいという思

いが強かった。ちょうど「さまざまなジャンルのたくさんの人と携わるような仕事をしたい」と自身のステップアップのために新たなことにチャレンジを考えていた時期でもあった。

ドリ大の魅力と

今後の役割

こうして動き出したドリ大は、クチコミで知られるようになり、当初十名程度だった登録生徒数が増えた。現在は二千五百名以上となり、生徒が増えるに従い、より責任感も増したことから、今後のことも考え、二〇一二年九月にはNPO法人化した。

ドリ大では、月に三〜四回授業を行う。そのテーマは、スポーツ、農業、音楽など多岐にわたる。講師と運営スタッフである授業コーディネーターが協力して企画する、他にはないオリジナルの授業が特長だ。

設立当初は、運営スタッフでさえも手探り状態。とにかく授業を企画し、実施することに力を入れていた。今年四年目を迎

えるドリ大の活動は、「行政や企業からの困りごとなどを解決するためのツール」として、ドリ大を活用いただいています。生徒である市民とつながる場をコーディネートするお仕事が増えてきました。行政に対する意見など、一人ではどうにもならないことでも、ドリ大を通して十名、そのうちに百名と集まることで、まちづくりに参加できるという新たな役割も見えてきました。今もできるだけ授業に参加しているという猪熊さん。「自分自身も楽しんでいて、久々に会う生徒の近況報告から、授業の企画のヒントを得ることもあります」と楽しそうに語る。

「楽しいですよ。ドリ大のことを必要としてくれる人がいるから、今のドリ大がある。ドリ大がなくなったら困る」という人が増えて欲しいので、今後は広報活動にも力を入れて、ドリ大をもっと知ってもらいたい」と学長として気を引き締める。